

# 種子島家墓地（御坊墓地） 調査報告会

令和7年2月22日  
株式会社 九州文化財研究所  
西之表市教育委員会

# 種子島家墓地(御坊墓地)調査について

## 1. 御坊墓地の概要

種子島の島主種子島家の祈願寺であった、華蔵山慈遠寺（大同4年〈809〉開基とされる、現在は廃寺）に隣接した墓地。

成立年代は不明だが、「種子島家譜」の貞和2年（1346）の記事【史料1】に「御坊〈慈恩寺の上に在り〉」とある。

御坊墓地には全18基の種子島家関係者の墓石が所在。敷地内には、この他に、種子島に漂着した中国人や、種子島家家臣なども葬られている【史料2・3】。また、天保9年（1838）7月には、種子島家墓地の墓域に石垣が築かれている【史料4】。

なお江戸時代末期には、墓地の整備が行われた【史料5】。

## 2. 墓地の特徴

(1)被葬者について（全18基）【表 1】

(2)墓石の配置

(3)墓石の向き【写真 1、 2】

(4)墓石の法量について【写真 3、 4】

(5)墓石の形状について【写真 5～ 7】

(6)墓石の石材について【写真 3～ 5、 8】

(7)伝 6 代種子島時充夫人墓（【表 1】 No. 4）について【写真 9】

(8)「葬礼」の場としての御坊墓地【史料 6～ 9】

おわりに



伝 6 代種子島時充夫人墓